

3人に1人が、家事の手間は「肉体・精神両面で負荷」と回答
今後欲しい「省力化家電」のトップ3は「トイレ」「エアコン」「自動洗浄浴槽」

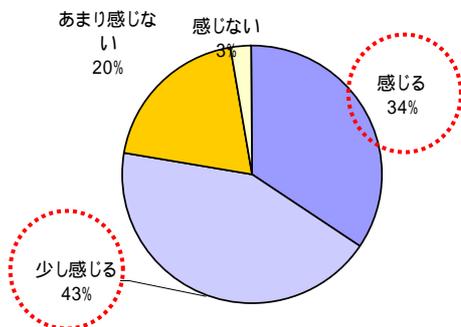
～ 女性 815 人に「家事の実態」を調査 ～

湯まわり設備メーカーの(株)ノーリツ(本社:神戸市、取締役社長:神崎 茂治、資本金:201 億円、東ノ大証一部上場)は、全国の女性 815 人を対象に、「家事の実態」について調査しました。今回は特に、「おふろ掃除」に注目しながら、ここ数年話題の「家事の自動化・省力化」への意向についても調査しました(巻末に概要を記載)。

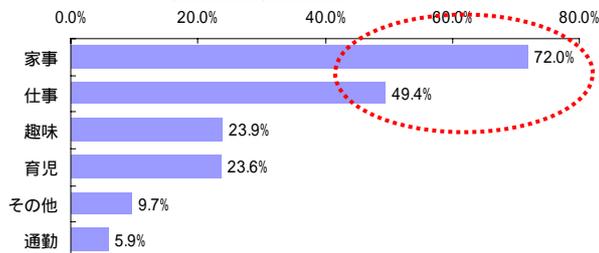
女性の忙しさの原因、7割が「家事」と指摘。
特に肉体的な要素で負荷が大きいと3人に1人が回答。

まず、現代女性の多忙度についてたずねました。日常的に忙しさを感じている女性は8割(グラフ1)で、原因として7割が「家事」、5割が「仕事」を挙げています。(グラフ2〔複数回答〕)。1日に家事にかかる平均的な時間は、「4時間以内」という回答が約33%でした。1日の1/6を家事に充てている女性が3人に1人います(グラフ3)。

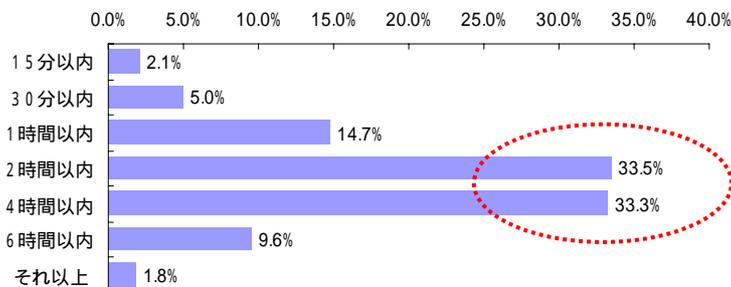
1) あなたは日常的に忙しさを感じていますか n=815



2) 忙しさの理由として当てはまるものをお答えください (複数回答) n=632



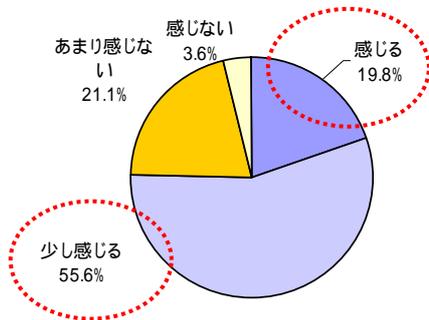
3) 1日に家事にかかる平均的な時間 n=815



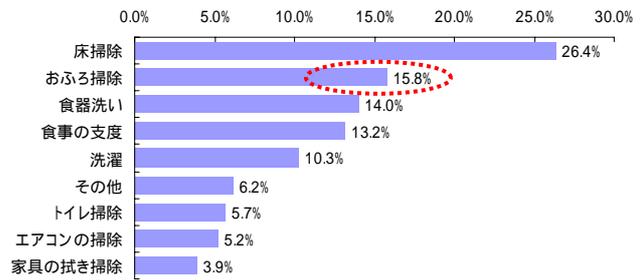
家事について「負荷を感じる」「少し感じる」と回答した女性は合計75.4%(グラフ4)。もっとも負荷を感じる家事のトップ3は「床掃除(26.4%)」、「おふろ掃除(15.8%)」、「食器洗い(14.0%)」でした(グラフ5)。「時間」と「手間」では、「手間」のほうが負荷になっていると回答した女性は4割(グラフ6)で、「手間」は「肉体的」「精神的」両面の要素がある、と3人に1

人の女性が回答しました。専業主婦の女性も、働く女性も、全体的に手間が負担になっているようです（グラフ7）。

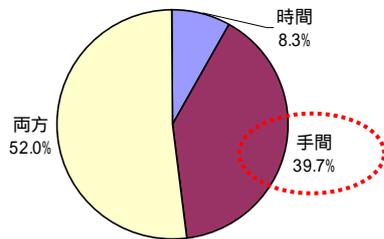
4) あなたは家事に負荷を感じますか。 n=815



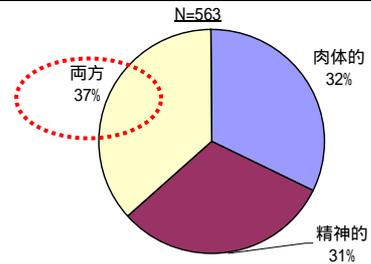
5) 家事の中で最も負荷を感じるもの n=614



6) あなたが家事で負荷を感じるの、かかる「時間」と「行程などの手間」、どちらの要素が大きいですか。 N=614



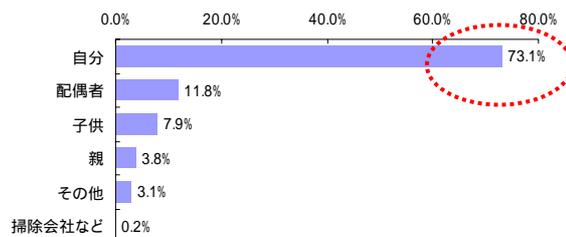
7) 手間は、肉体的と精神的、どちらの要素が大きいですか。 N=563



「お風呂掃除」がいぜん女性の仕事である家庭は7割。
「面倒」という意見が8割で圧倒的。

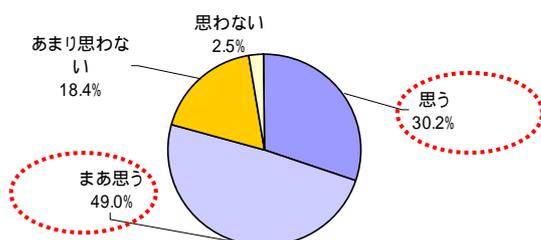
お湯まわりの掃除の中でも、日常的に欠かすことのできない「お風呂掃除」。お風呂掃除の担当は、73.1%の女性が「自分」と回答しています。配偶者や子どもが担当してくれる家庭は1割弱しかありません（グラフ8）多くの家庭で、お風呂掃除はまだ女性が負担することが多いようです。

8) お宅ではお風呂掃除は主に誰の担当ですか n=807

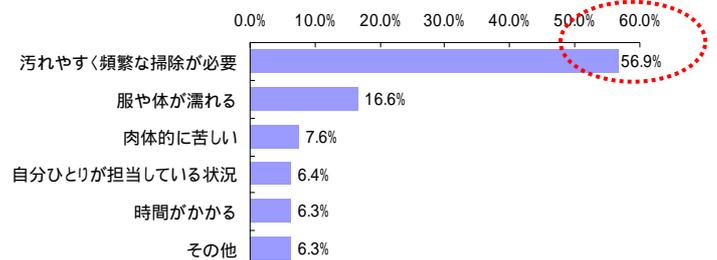


女性の多くが担当するお風呂掃除。「面倒だ」という意見は計79.2%にもものぼります（グラフ9）。その一番の不満点は、「お風呂は汚れやすく頻繁な掃除が必要」が56.9%、次いで「服や体が濡れる」16.6%、「肉体的に苦しい」7.6%が続きます（グラフ10）。

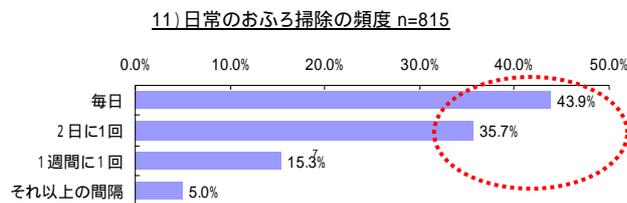
9) あなたはお風呂掃除を面倒だと思いますか n=815



10) お風呂掃除の一番の不満点 n=815

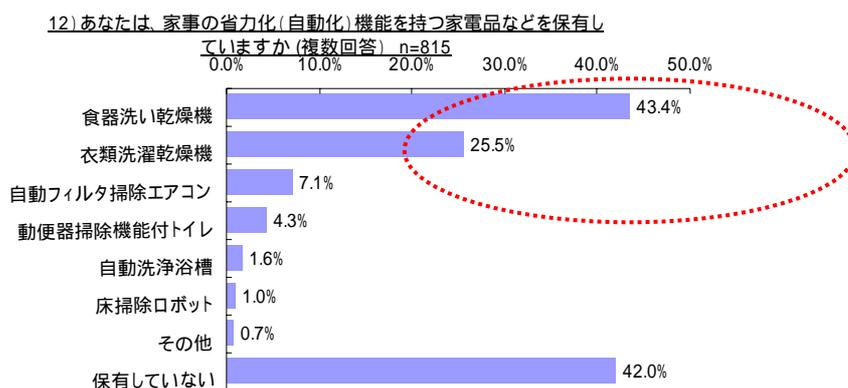


日常のおふる掃除の頻度は「毎日」「2日に1回」という回答が計8割でした。ほとんどの女性が、日常的に行わざるを得ない「おふる掃除」。頻度もきっと負荷の1つなのでしょう(グラフ11)。

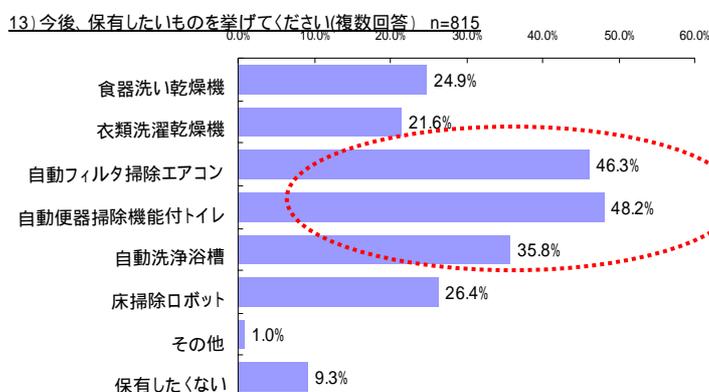


現在、1割の家庭で「自動フィルタ掃除エアコン」導入済み。約36%が「今後は自動洗浄浴槽が欲しい」と回答。

ここ数年、「エアコン」「トイレ」などの分野で、人間の手間や時間を「省力化」する自動機能を持つ家電品が話題となっていますが、こういった家電の保有率をたずねたところ、まだ42.0%の家庭には保有されていませんでした。保有している家庭では、「食器洗い乾燥機」が43.4%、「衣類洗濯乾燥機」が25.5%の家庭で導入されています。「自動フィルタ掃除エアコン」も7.1%と、1割弱の家庭で導入されていることがわかりました(グラフ12〔複数回答〕)。

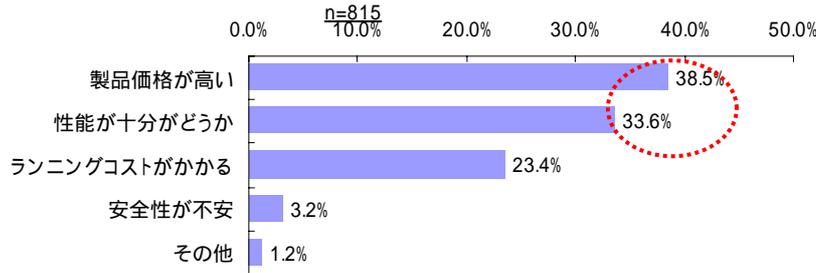


いっぽう、今後保有したいものとしては「自動便器掃除機能付きトイレ」が48.2%、「自動フィルタ掃除エアコン」が46.3%で、次いで「自動洗浄浴槽」が35.8%と続きました(グラフ13〔複数回答〕)。やはり、多くの女性が「自分」で「毎日」掃除していて「面倒」と感じるおふる掃除の自動化に対する希望は強いようです。



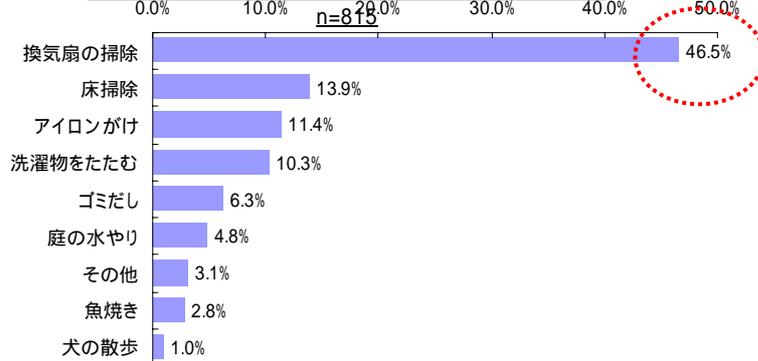
こうした「家事の省力化機能」を持つ家電品などで最も気になるところをたずねたところ「製品価格が高い」という回答が38.5%、「性能が十分かどうか不安」という回答が33.6%あがりました(グラフ14)。

14) 家事の省力化(自動化)機能を持つ家電品などで最も気になるところ



今後、もっとも省力化が進んでほしいと思う分野としては、「換気扇の掃除」が46.5%とトップでした。その他「床掃除」(13.9)、「アイロンがけ」(11.4%)が続きます(グラフ15)。

15) あなたが今後最も省力化(自動化)して欲しい家事

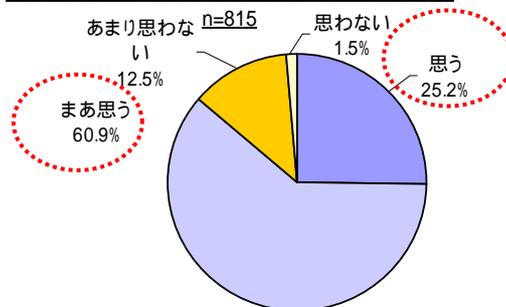


今よりも家事にかかる時間と手間が省かれたらやってみたいことは「習い事」「DVD鑑賞」「睡眠」。

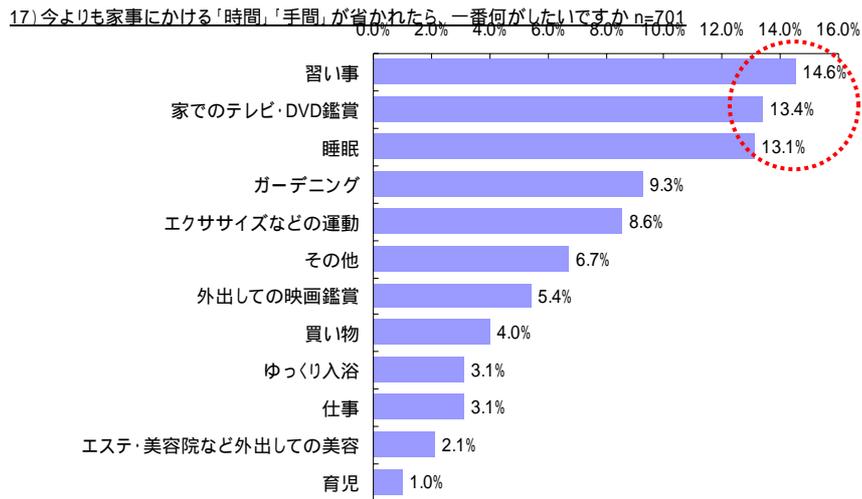
最後に、「今よりも家事にかかる『時間』『手間』が省けたら、生活に『ゆとり』が生まれるか」という質問をしたところ、「そう思う」という回答は25.2%、「まあそう思う」という回答は60.9%で、合計86.1%にものぼりました(グラフ16)。

「あまりそう思わない」「そう思わない」という回答も計13%ありました。理由としては「育児に一番時間をかけているため、自動というわけにはいかないから」「手間がかかるのは家事ではなくて夫だから」「親の介護があるから」などがありました。そうじや料理の家事は省力化できても、「家族」という対人関係があることを意識している女性も1割いることが明らかになりました。

16) 今よりも家事にかかる「時間」「手間」が省かれたら、あなたの生活に「ゆとり」が生まれると思いますか



また、「今よりも家事にかかる『時間』『手間』が省けたら、何が一番したいですか」という質問には、「習い事」(14.6%)、「家でテレビ・DVD観賞」(13.4%)、「睡眠」(13.1%)が続きました(グラフ17)。日常的に疲れている女性が多いため、家事の負荷が少なくなったら、ゆっくりと休みたいという気持ちが強く感じられます。



「夫」「子ども」「親」など「家族」とのコミュニケーションは変わらず女性の生活の中で大きな位置を占めると思われますが、今後、女性の社会進出がさらに進むにつれて、現在はまだ女性の負担が大きい家事について「省力化」が進むのではないのでしょうか。「自動」家電のさらなる普及が予測されます。

アンケート調査概要

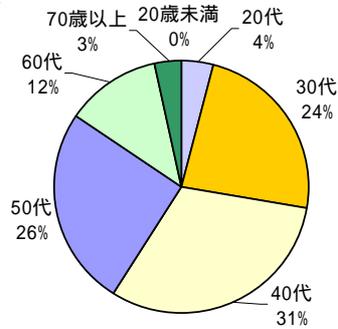
【方 法】Web アンケート

【期 間】2007年5月8日～5月10日

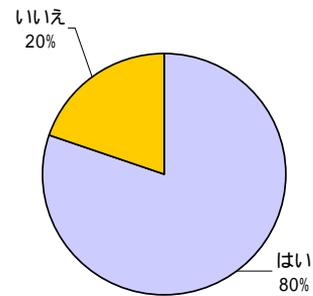
【対 象】ノーリツWEBサイト「NORITZSTYLE つかりコムねん」会員の全国の全世代の女性

【サプ^ル数】815 サンプル

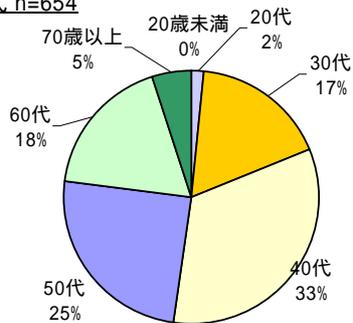
年代 n=815



あなたは配偶者がいますか n=815



配偶者の年代 n=654



職業 n=815

